

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同
生物物理学分科会（第26期・第2回）
および基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同
IUPAB分科会（第26期・第2回）

議 事 要 旨

- 1 日 時 令和7年1月9日（木）10:00～12:00
- 2 場 所 日本学術会議5階5-A（1）会議室及びオンライン併用
- 3 現地出席者 岡田眞里子、加藤晃一、諏訪牧子、豊島陽子、永井健治、野地博行、原田慶恵、坂内博子
オンライン 石島秋彦、上田昌宏、岡田康志、片岡幹雄、神取秀樹、栗原和枝、佐藤久子、七田芳則、寺北明久、中村春木、南後恵理子、林久美子、山下敦子（21名）
欠席者 秋山修志、宇高恵子、徳永万喜洋、難波啓一、西坂崇之

会議に先立ち、それぞれの分科会の出席者数が委員総数の2分の1以上を充たしており、両分科会が成立していることが確認された。

4 議 題

- （1）本分科会の議長について
- （2）共催シンポジウムについて
- （3）IUPAB2024報告
- （4）その他

5 議事要旨

- （1）本分科会の議長について

- ・ 日本学術会議や分科会のあり方について

岡田眞里子委員より、日本学術会議および分科会の今後のあり方について説明と問題提起があった。特に、IUPAB分科会については、学術会議からの分担金を受けてIUPABの運営を行うことが趣旨であるとの意見が、片岡幹雄委員および栗原和枝委員から示された。

- ・ **IUPAB分科会と生物物理分科会の委員長の兼任について**

現状では、IUPAB分科会と生物物理分科会の委員長を野地博行委員が兼任しているが、本来両分科会は趣旨が異なるため、野地委員より生物物理分科会の委員長を別に立てる提案があった。

- ・ **生物物理分科会委員長の再選について**

野地博行委員より、生物物理分科会の委員長として上田昌宏委員を推薦する提案があり、これが承認された。

IUPAB：国際純粋・応用生物物理学連合, International Union of Pure and Applied Biophysics)

(2) 共催シンポジウムについて

- ・ **日本学術会議シンポジウムの参加促進について**

岡田真里子委員より、日本学術会議シンポジウム「人工知能で生命を追求する データ駆動による生命の理解～細胞から人の動きまで～」の参加を促すための宣伝が行われた。シンポジウムにはすでに440人が参加登録しているとの報告があり、参加状況について説明があった。

(3) IUPAB2024報告

野地博行委員より以下の内容が報告された。

- ・ 財務報告は本年度末に予定している。現時点では決算が終了していないが、黒字であることが確認されている。
- ・ IUPAB 参加者数、参加国の割合、ジェンダー比率、各セッションの参加者数、ハンズオンプログラムの結果などが詳細に報告された。
- ・ 日本の生物物理のプレゼンスを世界的に、特に若手研究者に示すことができたことが強調された。
- ・ レポートは生物物理学会欧文誌と邦文誌、及び IUPAB の国際誌である **Biophysical Reviews** に掲載される予定であることが共有された。国際的にアピールする内容となるよう日本語と英語の両言語で記録が残る見込みであることが報告された。

これらの報告に加え、片岡幹雄委員から 1978 年と 2024 年の日本開催の IUPAB を比較したデータが報告され、アジア圏からの参加者増加が示された。これは近年の生物物理学会の取り組みの結果であると考えられる。

（４）その他

- ・ 永井健治委員から未来の学術振興構想について、2026年の文科省ロードマップ申請に向けたワーキンググループの立ち上げについて報告された。

以上